



筑波大学のOA加速化事業 における取り組み

筑波大学 学術情報部 情報企画課
リポジトリ担当 大石 柁洋



筑波大学概要

図書館総合展2024

2024.11.06

人的資源

- ◆ 総学生数：16,722名（学群学生9,634名、大学院生7,088名）
- ◆ 常勤教職員数：5,434名
- ◆ 外国人留学生数：2,411名
- ◆ 11附属学校児童・生徒数：3,976名 ※いずれもR6.5.1現在

物的資源

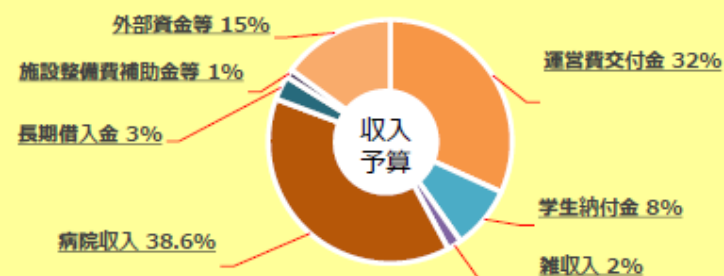
- ◆ キャンパス…筑波キャンパス（南北約5km、約258ha（東京ドーム約55個分））
東京キャンパス
- ◆ 附属学校（11校）…先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点
- ◆ 附属病院…県内唯一の特定機能病院、県内初の高度救命救急センター
- ◆ 附属図書館…中央図書館と4館の専門図書館、蔵書数約270万冊（電子ブック除く）

経済的資源

- ◆ R6年度学内当初予算(収入)：1,087億円

主な内訳

- ・運営費交付金：約346億円
- ・附属病院収入：約418億円
- ・外部資金：約160億円



筑波研究
学園都市

=

日本最大の
最先端研究開発拠点

- ・ 国立の研究機関の約 3 割が集積
- ・ 約 2 万人の研究者が研究活動

(引用) 筑波大学職員採用説明会概要紹介（事務） <https://www.tsukuba.ac.jp/about/jobs-information/pdf/r6-jimu-gaiyo.pdf>

IMAGINE THE FUTURE.



筑波大学のオープンアクセスに関連する取組状況

図書館総合展2024

2024.11.06

- 2006年3月：機関リポジトリ「つくばリポジトリ」公開
 - ✓ Dspaceで構築→2014年5月にJAIRO Cloud移行
- 2007年3月：学協会著作権ポリシーDB「SCPJ」公開
 - ✓ 現在はJPCOARに移管
- 2015年11月：オープンアクセス方針採択
- 2019年2月：講演会「オープンアクセスの今と未来」実施
- 2021年3月：オープンリサーチ出版ゲートウェイ「筑波大学ゲートウェイ」を公開
 - ✓ F1000Research社との契約に基づく開発
- 2022年8月：「筑波大学ゲートウェイ」が「Japan Institutional Gateway (JIG)」にリニューアル
- 2024年4月：研究データポリシー学長決定
- 2024年7月：オープンアクセス加速化事業採択
 - ① 全学でオープンアクセスに取り組む体制の整備
 - ② 戦略的なAPC支援と転換契約
 - ③ リポジトリ登録の効率化と即時OA体制の整備
 - ④ 公開査読・出版プラットフォームの利用促進



OA加速化事業における取り組み

① 全学でオープンアクセスに取り組む体制の整備

- 学長の下にOA加速化に向けた方針・戦略を決定する組織として「オープンアクセス推進会議」を設置
メンバー：研究担当副学長（議長）、附属図書館長（副議長）
財務担当副学長、各系長等
- この組織の下、研究推進部・URAは企画部門、附属図書館は実施部門として、連携してOA推進にあたる
- 実施部門である附属図書館では資料保存環境整備等により業務量を縮減してOA推進にかけられるエフォートを確保
- 筑波大学発の取り組みである新しい論文投稿の形となるJapan Institutional Gateway (JIG)とも連携



② 戦略的なAPC支援と転換契約

➤戦略的なAPC支援

- ・ 交付決定以後、教員を対象に個々に支払うAPCの補助
- ・ JIGでの論文出版費用補助

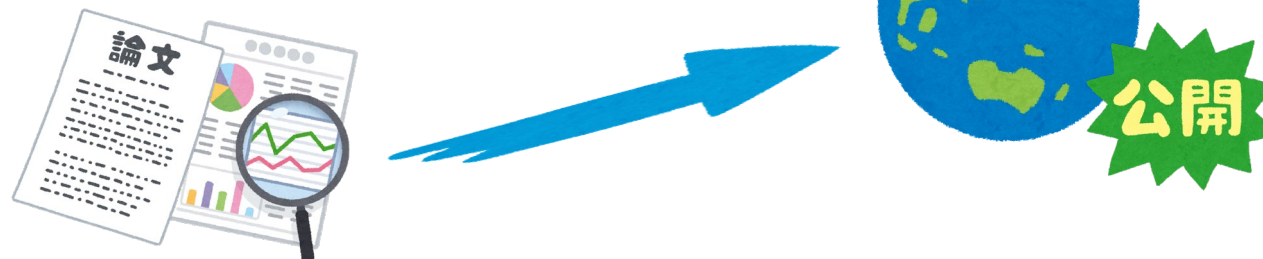
➤転換契約

- ・ 令和7年から、全学経費で整備してきた大手出版社5社のパッケージを転換契約に切替え
- ・ 令和7年1月～3月に生じる購読モデルとの差額分については、OA加速化経費により充当
- ・ 令和7年4月以降の差額分については、受益者負担により捻出



③ リポジトリ登録の効率化と即時OA体制の整備

- 筑波大学研究者総覧（TRIOS）を改修し、教員による研究成果の入力から「つくばリポジトリ」への登録フローを効率化
- 即時OAの対象となる論文の特定と登録作業の効率化を目的として、KAKEN DBやUnpaywallからOA状況や書誌情報を抽出できるシステムを開発
- 資料保存環境整備によって捻出されるエフォートを有効に活用し、増加が見込まれる登録業務や著作権ポリシー調査、研究成果のOA化を全学的に啓蒙する広報等に携わる人員を確保
- 全学的な研究データの管理・公開に備えて、関係部署間での連絡を密に取りながら体制を整備





④ 公開査読・出版プラットフォームの利用促進

➤ Japan Institutional Gateway (JIG)

<https://f1000research.com/japan-institutional-gateway>

- ・日本語論文の公開査読・出版を行える国内唯一のOAプラットフォーム（英語も可）
- ・日本語研究の見える化を促進
Scopus, PubMed, CiNii Researchでも検索可能（日本語タイトルでの検索にも対応予定）
- ・このため即時OA義務化にも対応
- ・筑波大学が中心となり、アフィリエイト機関として国内数機関が参加

例）京都大学

<https://www.f1000.com/author/markrobinson/>

➤ OA加速化への取り組み

- ・国内研究者の利用促進及びアフィリエイト機関の拡大
- ・全国規模やブロック単位での研修会を開催、各種情報発信

貴機関でも
ぜひ参加を
ご検討ください

➤ 研修会情報

- ・日時：2024年11月19日（火）
13:30-18:00（13時開場）オンライン配信あり
- ・場所：日比谷スカイカンファレンス（霞ヶ関）
- ・内容：講演、パネルディスカッション
- ・対象：研究者、URA、図書館関係者、研究機関の事務職員
- ・詳細：<https://ura.sec.tsukuba.ac.jp/archives/43955>

